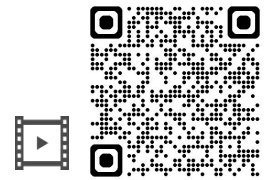


# 451-4-451 進行

【コード進行の型 C001】風のIVと教科書終止



## 目的

定番のコード進行を自分のものにして創作に役立てましょう。Blowin' In The Wind のコード進行を機能分析して基本的なコード進行の法則を探っていきます。

### POINT

- 定番のコード進行をベースにして曲作りをはじめよう
- まずは基本のスリー・コードの機能分析から

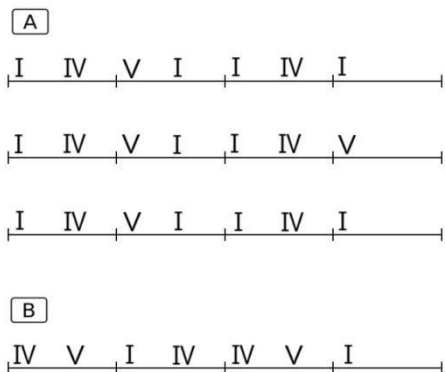
オリジナル曲を作ろうとすると、作詞・作曲の手順としては、脳裏に浮かんだメロディや歌詞にコードを付けていく方法と感興を覚えたコード進行にメロディや歌詞を乗せていく方法の二つが考えられます。

何もないところからメロディや歌詞が浮かんでくるといふ幸運は滅多にないことですから、最初は定番のコード進行を組み合わせて、そこにメロディや歌詞を乗せていくという手法を用いると入りやすいかもしれません。

この手法なら、コード進行そのものが自分の表現したい曲のイメージをつかみやすくしてくれるので、メロディや歌詞がつられて浮かんでくることもあるからです。

まずはスリー・コードを使った名曲の分析を通して、基本的なコード進行の法則を探っていきましょう。

### Blowin' In The Wind



### スリーコード

I II<sub>m</sub> III<sub>m</sub> IV V VI<sub>m</sub> VII<sub>dim</sub>  
C D<sub>m</sub> E<sub>m</sub> F G A<sub>m</sub> B<sub>dim</sub>

I IV V  
C F G

### Comment

#### 【スリー・コードについて】

スリー・コードとは主要三和音と呼ばれるもので、ダイアトニック・コード群の I・IV・V の和音のことです。C フォームのダイアトニック・コード群なら、C・F・G の三つのコードのことを言います。これら主要三和音にはそれぞれ進みやすい方向があり、その機能や役割を知ること、楽曲のコード

進行を体系的に整理して覚えていくことが可能になります。

コードの機能と役割

【コードの機能】

I

IV

V

T

S

D

トニック(Tonic)

「安定」

サブドミナント(Sub Dominant)

「やや不安定」

ドミナント(Dominant)

「不安定」



コードの進行方向

ダイアトニック・コードには、大きく分けて三つの機能と役割があります。スリー・コードの場合、Iはトニック、IVはサブドミナント、Vはドミナントです。

トニックはキーの中心となるコードで響きに安定をもたらして落ち着きを与えます。サブドミナントはコード進行に彩りをもたらすコードでやや不安定などつつかずの印象を与えます。ドミナントは不安定な響きをもたらすコードで、とにかく中心となるトニックに進まなければ落ち着かない印象を与えます。

【トニックの進行方向】

I

T

「安定」

IV

S

「やや不安定」

V

D

「不安定」

【サブドミナントの進行方向】

IV

S

「やや不安定」

V

D

「不安定」

I

T

「安定」

【ドミナントの進行方向】

V

D

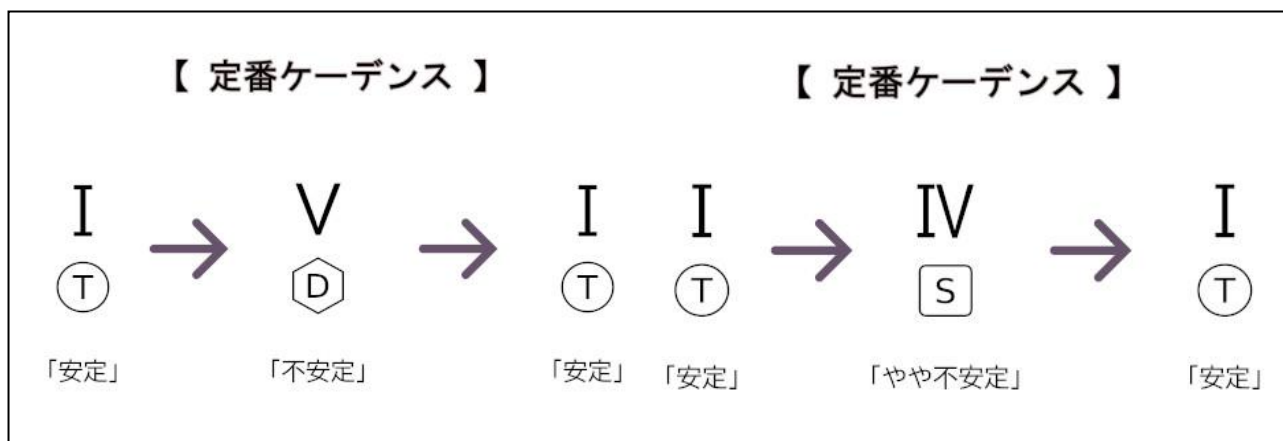
「不安定」

I

T

「安定」

各コードにこうした機能や役割があるために、ケーデンスとかカデンツ (Cadense/Kadenz) と呼ばれるコードの並び順がある程度決まってくるのですが、それが定番のコード進行というわけです。



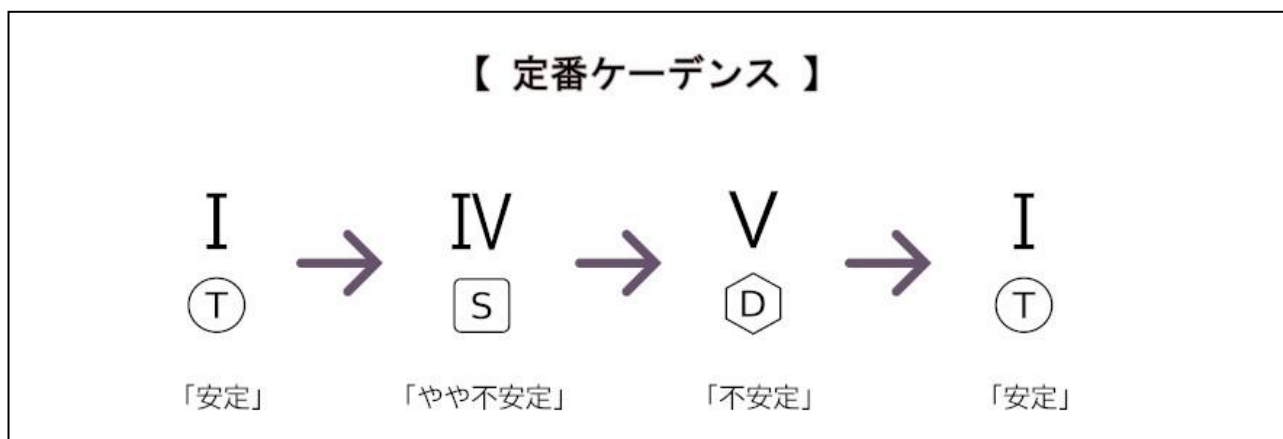
最初は基本となる三つの定番ケーデンスをスリー・コードで弾く練習を繰り返すことで、コードの機能と役割を耳と身体に覚え込ませましょう。

まずは「号令終止」の「151 進行」。「起立・礼・着席」の号令で自然に身体に染みついてしまったコード進行です。

それから「141 進行」。教会で讃美歌を歌い終わった後に「アーメン」とくっつけるときの進行が「IV → I」というケーデンスだったことから「アーメン終止」とも呼ばれています。

## ケーデンス(Cadense) : コードの並び順

それから「教科書終止」とも言える「1451 進行」。スリー・コードをそれぞれが最も進みやすい方向に並べた基本的なケーデンスです。



### 【 スリー・コードの楽曲 】

スリー・コードで構成された楽曲で定番ケーデンスを確認してみましょう。ここで取り上げるのはボブ・ディランの『Blowin' In The Wind(邦題：風に吹かれて)』(1962)です。

## Blowin' In The Wind の一本線コード譜

**Blowin' In The Wind**

**A**

I	IV	V	I	I	IV	I
(T)	(S)	(D)	(T)	(T)	(S)	(T)

I	IV	V	I	I	IV	V
(T)	(S)	(D)	(T)	(T)	(S)	(D)

I	IV	V	I	I	IV	I
(T)	(S)	(D)	(T)	(T)	(S)	(T)

**B**

IV	V	I	IV	IV	V	I
(S)	(D)	(T)	(S)	(S)	(D)	(T)

Aメロは「教科書終止」の「1451 進行」と「アーメン終止」の「141 進行」で構成されていることが分かります。

この楽曲で特徴的なのはBメロのIVでしょうか。二つの「IV→V→I」の間に挟み込まれている「IV」が「答えは風に吹かれている…」という混沌とした雰囲気醸し出しています。

**【 定番ケーデンス + 風のIV 】**

IV

S

「やや不安定」

→

V

D

「不安定」

→

I

T

「安定」

+

IV

S

「やや不安定」

ここはトニックの「I」を続けても成立するところなのですが、あえて「IV」を挟むことで歌詞の意味を補強しているとも言えます。

『 Blowin' In The Wind(邦題：風に吹かれて) 』(1962)の451-4-451 進行を弾いてみましょう。

## 【 Blowin' In The Wind 】

Key in D

Play C (Capo2)

Play A (Capo5)

この楽曲はDキーで弾くと歌いやすいようです。歌えないキーで弾いていても練習が続かないものなので、自分の歌いやすいキーを探して弾くようにするといいかかもしれません。

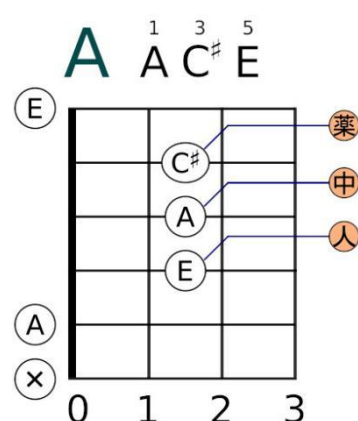
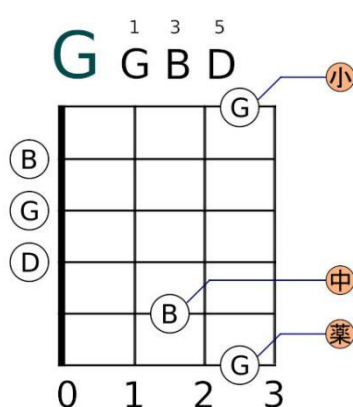
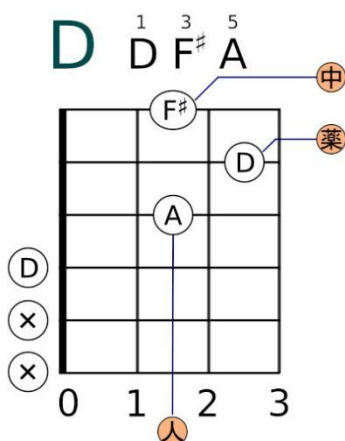
I II<sub>m</sub> III<sub>m</sub> IV V VI<sub>m</sub> VII<sub>dim</sub>  
D E<sub>m</sub> F<sub>m</sub><sup>#</sup> G A B<sub>m</sub> C<sub>dim</sub><sup>#</sup>

Dフォームのスリーコード(主要三和音)

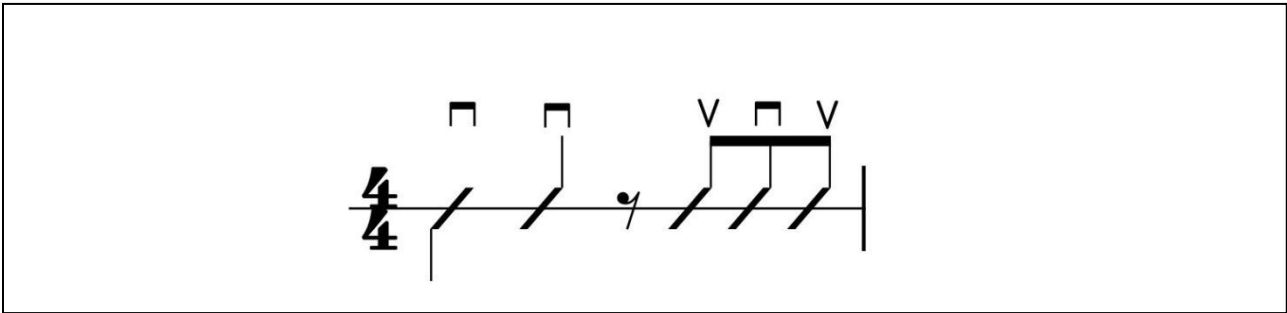
I IV V  
D G A

Dフォームのスリー・コードは「D・G・A」です。

I・IV・Vのナンバリング・コードでコード進行を把握するようにして、トニック・サブドミナント・ドミナントのそれぞれの機能と役割を耳と身体に覚えこませるというのがコツです。



ストローク・パターンはこんな感じです。



「風のIV」の効果を体感して作曲やリハーモナイズに活かしてみてください。

Blowin' In The Wind(Bメロ)の一本線コード譜

B

IV	V	I	IV	IV	V	I
S	D	T	S	S	D	T

